

ウスカワマイマイ・ナメクジについて

果樹試験場 衛藤友紀

今月は、カンキツ、ブドウおよびモモ等で問題となる「ウスカワマイマイ」、「ナメクジ」について説明します。

一生 態

ウスカワマイマイ、ナメクジともに軟体動物という無脊椎動物の仲間です。ウスカワマイマイはカタツムリの一種であり日本全土に分布しています。殻高2 cm、殻径2.5 cmと比較的小さく、名前のおり薄い殻で覆われており、体色は半透明の褐色です。日本には約700種類のカタツムリがありますが、その中でもウスカワマイマイは山林等の薄暗い場所ではなく、人家や庭、農地等の比較的明るい場所に生息する種類です。

一方、日本におけるナメクジには数種類いますが、農業害虫として嫌われているのは主に「チャコウラナメクジ」、「ノハラナメクジ」です（以下、よく見かけるチャコウラナメクジを紹介します）。昆虫でいう成虫（親）にあたる発育態を「成体」と呼び、長いもので5～7 cm程度に成長します。チャコウラナメクジはヨーロッパ原産の外来種であり、日本には1950年代に侵入してきたと考えられ、現時点では本州～九州にかけて分布しています（以下、チャコウラナメクジはナメクジとします）。

ウスカワマイマイとナメクジには共通する習性があります。例えば①夜行性である、②高い湿度を好む等です。ジメジメとした湿度が高い場所を好むので、日中は、ウスカワマイマイは植物の株元、壁の隙間等、ナメクジは落ち葉や地面上のブロックや石の下等に潜み、夜になると活動を開始して、カンキツ等の樹上に登ります。

ウスカワマイマイ、ナメクジ、同じく農業害虫であるスクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）には、病原性微生物（広東住血線虫）が寄生している恐れがあるので、くれぐれも素手で触ることがないようにしてください。

一被 害

ウスカワマイマイ、ナメクジともに柔らかい身体とは似合わないヤスリ状（鋭い）の口（正しくは歯舌）をしており、その口を使って、作物の葉や果実を削り取るように食害します。果樹、野菜類、花卉類等、寄種範囲が広いことが特徴であり、特にキャベツ等のアブラナ科作物を好みます。

本県の果樹においては、露地・施設カンキツ、施設ブドウ、施設モモにおいて防除対策に関する問い合わせが多いです。高い湿度を好むので、湿度が高い時期、例えば露地カンキツでは、梅雨時期、8月以降の秋雨前線が活発な時期に被害が多くなる傾向があります。被害としては、柔らかい葉を食害することがありますが、実害としては果実被害が大きいです。カンキツの場合、未熟果では果面を食害し、成熟果では果実内部に達することがあります。また、ウスカワマイマイ、ナメクジともに、①這った部位に残存する粘液が光る、②這い跡に金魚の糞のような黒い糞が散在することからも、果実の外観が損なわれることがあります。

ウスカワマイマイ等と似たような被害を生じる害虫としては、ミノムシやカネタタキ等

が挙げられます。カンキツでの被害例としては、ミノムシの食害跡は白い筋状のジグザグした模様になることが多く、果面全体に不整形に広がります。一方、カネタタキの食害跡は、幼果の場合、一見ミノムシ被害にも似ていますが、蛇行状であり、ミノムシの場合より浅い表層を食害します。また、果実以外にも葉および枝にも被害が及びます。また、成熟果ではウスカワマイマイと同様に果実内部まで食害することがあります。ただし、いずれの害虫もウスカワマイマイのような光る這い跡は生じません。

幼果の場合、食害を受けた直後であれば、蛇行状等のような食害跡もはっきりしますが、その後のカルスの形成も盛んなため、時間が経過すると食害跡は複雑に隆起して、加害した害虫が分かりにくくなります。

—防除対策—

●耕種的防除：高い湿度を好む等の特徴から、そのような「場所を作らない」、「環境にしない」ことを心掛けます。例えば、落葉の除去、除草管理の徹底等です。また、露地栽培では園内が高湿度とならないよう、防風樹を剪定して、通風を確保することも重要です。さらに、枝吊りを行う等して、樹上に登る機会を減らすことも大切です。

植物体に寄生するウスカワマイマイを捕殺することも大切ですが、先述のように直接触ることがないようにします。

●薬剤防除：他の害虫と比較して登録薬剤が少ないのが現状で、今ある薬剤を有効に利用し、防除を行います。防除薬剤としては、処理方法の違いにより、大きく分けて2種類あります。樹体に直接散布する薬剤、または地面等の株元に散布または配置する薬剤です。前者としては、IC ボルドー66D（カンキツで登録）、マイキラー（みかん・カンキツで登録）等があります。後者としては、スラゴ（作物登録ではなく、圃場、温室およびハウス等で登録）、ナメクリーン3（みかんで登録）等があります。どの害虫にも共通することですが、発生初期の防除が大切です。例年、被害が多い園では、発生時期を想定することが可能と思われるので、天気予報を把握して、湿度が高まりそうな時期の前に防除を行うことを心掛けます。

県果樹試験場では、生産現場の一助となるように、ウスカワマイマイ、ナメクジに対する農薬登録を行うための防除試験を行っています。登録にはもう少し時間は必要ではありますが、期待して待っていただければ幸いです。



ウスカワマイマイ



露地カンキツ被害
(7月撮影)



露地カンキツ被害
(9月撮影)



チャコウラナメクジ



露地カンキツ被害
(9月撮影)



施設カンキツ被害
(2月撮影)



カネタタキの被害
(8月撮影)



カネタタキの被害
(10月撮影)